

## 平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

〔分類〕 普及技術

〔成果名〕 もも、ネクタリンのモモハモグリガ防除にサムコルフロアブル10が有効である

〔要約〕 もも、ネクタリンのモモハモグリガ防除にサムコルフロアブル10の5,000倍液を布する。蚕に対して影響があるので、桑葉にからないようにする。

〔担当〕 果樹試験場 環境部

〔部会〕 病虫部会

### 1 背景・ねらい

チョウ目などに対して特に効果の高い新規殺虫剤サムコルフロアブル 10 の登録に向けて平成 16 年から試験を行ってきたが、平成 21 年 9 月に登録になった。もも、ネクタリンのモモハモグリガの有効な防除薬剤と考えられ、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

(1)もも、ネクタリンのモモハモグリガ防除にサムコルフロアブル 10 の 5,000 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

サムコルフロアブル

〔一般名及び成分含量〕 クロラントラニリプロール 10%

〔毒性〕 人畜毒性：普通物 〔魚毒性〕 B 類相当

〔対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 29 日 JPP ネット確認）〕

作物名	適用害虫	希釈倍数	散布液量 リットル / 10 a	使用時期	本剤及びクロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	使用方法
もも	モモハモグリガ	5,000倍	200～700	収穫3日 前まで	2回以内	散布
ネクタリン	シンクイムシ類					

### 3 利用上の留意点

- (1)本剤は筋肉細胞に作用して筋肉収縮を引き起こし、対象害虫は活動が停止し死亡する。効果の発現はやや遅効的である。
- (2)卵に対しては直接的な殺卵効果は無いが、ふ化途中で死亡する。
- (3)浸透移行性に優れる。
- (4)モモハモグリガに対しては殺卵、食入防止効果が高く、また残効期間が長い。
- (5)蚕に対して影響があるので、桑葉にからないようにする。
- (6)水産動物（甲殻類）に影響があるので、河川、養魚池へ飛散・流入しないように注意する。
- (7)ミツバチ、マメコバチ、マルハナバチに対してはほとんど影響がない。また、カブリダニ類、寄生蜂などの天敵類に対する影響は認められない。

### 4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

- (1)平成 16、21 年の試験で、サムコルフロアブル 10 はモモハモグリガに対し、対照薬剤デミリン水和剤と同等の高い防除効果が認められた（表 1、2）。
- (2)両試験とも、ももに対する薬害は認められなかった。

表 1 もものモモハモグリガに対するサムコルフロアブルの防除効果（平成 16 年、果樹試）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 葉数	10葉当たりマイン数（散布21日後）			薬害
			1 - 2 齢	3 齢	合計	
サムコルフロアブル10	5,000	129	0	0	0 ( 0)	無
デミリン水和剤	2,000	132	0	0.6	0.6( 3)	無
無 処 理	-	76	0.4	23.6	24.0(100)	

2 区平均。（ ）内は無処理比。

試験方法：試験場内ほ場。発生程度は多発生。供試樹は「白鳳」「川中島白桃」成木。1 区 1 樹、2 反復。平成 16 年 6 月 2 日（第 1 世代成虫発生初期）に 1 樹あたり 20 リットルずつ動力噴霧機で散布した（展着剤マイリノー10,000 倍添加）。

調査方法：散布前にモモハモグリガの寄生葉のない新梢を 1 樹当たり 10 本選びマークした。散布 21 日後（6 月 23 日）にマーク新梢の葉数およびマイン数を調査した。マイン数は 1 ~ 2 齢幼虫によるマインと 3 齢幼虫によるマインを分けて数えた。

表 2 もものモモハモグリガに対するサムコルフロアブルの防除効果（平成 21 年、果樹試）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 葉数	10葉当たりマイン数（散布15日後）			薬害
			1 - 2 齢	3 齢	合計	
サムコルフロアブル10	5,000	254	0.1	1.6	1.7( 5)	無
デミリン水和剤	2,000	289	0.1	0.1	0.2( 1)	無
無 処 理	-	282	2.6	28.4	31.0(100)	

2 区平均。（ ）内は無処理比。

試験方法：試験場内ほ場。発生程度は多発生。供試樹は「川中島白桃」成木。1 区 1 樹、2 反復。平成 21 年 6 月 4 日（第 1 世代成虫発生初期）に 1 樹あたり 40 リットルずつ動力噴霧機で散布した（展着剤マイリノー10,000 倍添加）。

調査方法：表 1 に準ずる。ただし、調査新梢は 1 樹当たり 20 本、調査は散布 15 日後（6 月 19 日）。

## 6 その他特記事項

[ 公 開 ] 制限なし。

[ 課題名、研究期間、予算区分 ]

果樹の新規農薬等の効果試験、平成 16 年度（2004 年度）、民間受託

果樹の病害虫に関する素材開発研究（果樹ハモグリガ類の安定的防除技術の確立）、平成 21 年度（2009 年度）、県単素材開発